

○議長（小川 廣康君） 昼食休憩といたします。再開は午後1時ちょうどといたします。

午前11時48分休憩

-----

午後1時00分再開

○議長（小川 廣康君） 再開します。

午前に引き続き、市政一般質問を行います。7番、船越洋一君。

○議員（7番 船越 洋一君） 清風会の船越洋一でございます。先に通告をいたしておりました、大きくは2点について、市長並びに教育長にお伺いをいたします。

まず、1点目でございますが、宗家墓所の整備について2点伺います。

1点目は、本堂裏の裏御霊屋の整備についてでございますが、この墓所には、宗家の家老ほか婦人、重臣たちの墓がありますが、現状は未整備で荒れ放題となっておりますが、この墓所は対馬藩宗家墓所等整備計画の中には入っておらず、未整備のままになっていると思っておりますが、第一期整備計画は終了いたしました。今後このまま放置するのか。また、第二期の整備計画で取り組む意思があるのか、教育長にお伺いをいたします。

2つ目は、万松院広場の入口の橋のかけかえはできないかでございますが、現状では、橋の下から鉄骨で補強されてはありますが、老朽化しており、車の通行にも支障を来し、危険な状況だと思われま。

この質問については、前市長にも質問をした経緯がありますが、お寺との関係もあり、難しいとのことでありましたが、改めて市長にお伺いをいたします。

次に、2点目でございますが、巖原市街地の整備について4点伺います。

1点目は、西川端通りの柳の木の新定についてでございますが、昨年台風時にも2本の柳の木が途中から折れております。人的被害がなかったからよいものの、被害があれば大変なことになります。また、景観上も見ても悪く、新定をし、町並み形成を図るべきだと思いますが、市長のお考えを伺います。

2点目以降は、県との協議が必要だと思いますけれども、あえて市長にお伺いをいたします。

東川端通りの花壇の草取りの件でございますが、巖原本川の遊月橋から佐野屋橋までの河川側面壁を花壇として利用できるよう施工されておりますが、花壇にススキ、雑草等が伸び、見る影もありません。また、3点目の巖原本川の川底の清掃でございますが、潮が満ちてくると小魚がたくさん上がってきて、観光客の目を楽しませておりますが、清掃がされてなく、空き缶、ごみ、汚泥等が積もっており、町並みの景観は悪くなっていると思われま。

整備をする必要があると思いますが、市長の考えをお伺いをいたします。

次に、4点目でございますが、中矢来船溜まりの浚渫についてでございますが、巖原本川から流れ

てくるごみ等が堆積し、夏には異臭を放ち、近隣の住民の方にも悪臭に悩まされていると聞き及んでおります。長年、浚渫がされてなく、この浚渫はできないか、市長にお伺いをいたします。

以上、よろしく願いいたします。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 船越議員の質問にお答えいたします。

初めに、万松院広場入口の橋のかけかえに対する御質問でございますけども、このことにつきましては、後ほど教育長のほうにも答弁させていただきます。

初めに、この案件につきましては、平成25年12月議会で同様の御質問があり、その折には、明治18年のころにかけられた歴史的価値がある近代構築物に位置づけられることから、かけかえがいいのか、現状維持がいいのか、一部補修がいいのかななどを史跡整備委員会や保存会、その他さまざまな方々と協議をし、方向性を決定していくべきである旨、回答をしておりました。

しかしながら、この橋が宗教法人万松院様の財産であると思われることなどから、進展を見ることができていない状況でございます。老朽化も進み、危険性も年々増してきているふうを感じておりまして、市としても何とか対処できないかという思いを持っているところでございます。

史跡の指定区域から外れている部分ではございますが、対馬を代表する史跡の入口部分にもなりますので、史跡の周辺整備という観点から、事業の組み立てができないか、教育委員会部局と協議をしまいたいというふうに考えているところでございます。

次に、2点目の巖原市街地の整備についてでございますが、巖原本川を挟んで東川端通り、西川端通りは、昔から巖原町の中心街として、また城下町として風情あふれる町並みを形成し、観光客も多く行き交い、静寂と賑わいを演出する場所でございます。西川端通りは、市で管理しておりまして、柳の木は佐野屋橋付近から一ツ橋付近まで19本、中には枯れた後に、団体様の御厚意により、新たに植栽されたものもあり、大事に管理していきたいと思っております。

柳の木の剪定につきましては、随時、枝を剪定しているところではございますが、電線にかかったり、伸び過ぎている枝等も見受けられます。今後においては、補植等も含め、巖原本川の川面に映る柳の枝の風景を皆さんに楽しんでいただけるよう、しっかり管理してまいりたいと思っております。

次に東川端通りの花壇の草刈りについてでございますが、巖原本川の遊月橋から巖原第一分団の詰所付近まで約200メートルの左岸の緑化ブロックに、以前は植栽がされておりましたが、現在は植栽されていた花木はなくなり、一部近隣の方により手入れがされているところでございます。遊月橋から有田橋までの区間は、雑草が生えて見苦しい状態となっていることは理解しております。緑化ブロックの管理につきましては、管理者であります対馬振興局と協議中でございますが、川端通りの美化につきましては、現在、対馬振興局と対馬市でつくる観光振興プロジェ

クトチームにより、フラワーロードの整備として、フラワーポット等の設置を検討しているところでございます。

次に、厳原本川の川底の清掃の件でございますが、土砂の堆積は見受けられませんが、近隣の民家の雑排水が流入する関係上、少量のヘドロ等が堆積し、中には空き缶等のごみも見受けられます。

本河川は、町の中心部を流れる大切な川でございますので、清掃等の環境美化について、対馬振興局と協議をしまいたいと思っております。そして、きれいな環境で観光客の皆様を迎え入れ、城下町の風情を楽しんでいただけるような環境づくりに努めたいと思っております。

最後に、中矢来船溜まりの浚渫についてでございますが、本施設は江戸初期に築造された厳原港の港湾施設として、石積みの護岸が残る風光明媚な船溜まりで、現在は漁船、プレジャーボートの係留施設となっております。

泊地の浚渫について、管理者である対馬振興局に相談しましたところ、堆積状況等を確認の上、対応を検討していきたいと考えておりますが、現在、厳原港のふ頭再編整備事業等を進めている中で、早急に対応することは難しいとのことでございます。

市といたしましては、早急に対応していただけるよう、今後も継続的に要望をしまいたいと考えております。

以上でございます。

○議長（小川 廣康君） 教育長、永留和博君。

○教育長（永留 和博君） 船越議員の御質問にお答えします。

まず、本堂裏の裏御霊屋の整備についてでございますが、対馬藩主宗家墓所は昭和60年に史跡として国から指定を受けており、平成6年から国・県の補助を受けながら整備を進めてきたところです。

これまでは、上御霊屋、中御霊屋を中心に墓石や石垣の修理、サイン整備等を行ってまいりました。整備に当たっては、対馬藩主宗家墓所等保存整備委員会の指導・助言をいただきながら進めてきたところです。

平成30年度をもって第一期の整備を終了し、今後は金石城跡や清水山城跡といった隣接する史跡と合わせ、対馬藩関連遺産群として保存活用計画、整備基本計画を策定した後、第二期の整備に入っていく予定であります。

御質問の裏御霊屋につきましては、この第二期計画に整備を盛り込んでいくことといたしております。裏御霊屋は、宗家二代藩主義成の生母「威徳院」を始め、主に藩主の親族の墓石が置かれております。

計画策定前であり、整備の具体的な時期や内容について、詳しく申し上げられませんが、他の

エリア同様、国指定史跡としての偉容や景観に配慮しながら進めていきたいと思っております。また、現在は清掃等が行き届いていない状況ですが、日常管理については所有者である万松院と対応を協議してまいりたいと思っております。

次に、橋のかけかえに関する教育委員会としての考えですが、基本的には市長の考えと同じであります。

この件につきましては、平成25年12月議会定例会における議員からの御指摘を受け、翌26年2月19日開催の対馬藩主宗家墓所等保存整備委員会に意見を求めたところ、石橋の拡幅については慎重であるべき。川と城壁を眺めながら万松院まで歩いてもらったほうがよいといった意見をいただいたところです。

ただ、橋の老朽化あるいは万松院だけにこの問題を任せてよいのかという点については、私どもも悩ましく感じているところであります。

史跡の活用という面からは、多くの観光客に宗家墓所に足を運んでいただきたいという思いはありますし、そのためにはあの橋の安全性が担保されることが必須であることも承知しております。そして、多くの観光資源を抱え、加えて新しい博物館が建設されるこのエリアは、一体的な整備と機能の連携が必要であることも、以前から議員御指摘のとおりであります。

御質問をいただいてから時間を経過しておりますが、観光振興、文化財の保存・活用、まちづくりといった視点から、また来年度以降予定しております対馬藩関連遺産群としての第二期整備も踏まえ、改めて市長部局と検討を進めていきたいというふうに思います。

以上であります。

○議長（小川 廣康君） 7番、船越洋一君。

○議員（7番 船越 洋一君） まず、本堂裏の裏御霊屋の整備についてであります。まず教育長にお伺いします。

今、整備計画では、百雁木の上の宗義智公の墓石ですね、そこら辺をずっとやってきて今、第一次の整備計画が終わったと思うんです。

それで、裏御霊屋の件をなぜ私が言うかといいますと、旧厳原町時代に私も一般質問であそこを言ったことがあるんです。その当時はまだ、草ぼうぼうで、木がぼうぼうで、もう墓石が見えないぐらいあった。それを、旧厳原町時代にあそこは木を切った経緯があります。

この前も、私、そこに行ってみたんですが、墓石は傾いて、倒れておるものもありますし、それから、墓石の横についてあるその石の扉ですか、これも崩れて倒れ、枯れ木が墓石の上に倒れてきて、そのまま放置されている。そういう状況です。

確かに、宗義智公は、大きな事業をやられて対馬の礎を築いていただきました。宗義智公だけでやられたものではなく、その家臣がおって初めてその功績はできたと思うんです。その人た

ちの墓石があるというところについては、義智公の墓のほうについてはきれいに整備はするが、そこは荒れ放題になっておるといふことにつきましては、私はちょっと懸念するところがあるんです。

そういうところを、いつも教育長が言っておられますように、文化財として後世に残すようにしていくのが我々の使命だと、よく言われますよね。そういうところにも気を配って、しっかりとそこら辺の整備もするべきだと、私はそう思います。

そういう墓石を、そういうふうにならぶと罰が当たりますよ。あなたにだけじゃない、みんなに罰が当たります。そういうのは大事にするべきことが、日本人の魂です。

そこら辺もしっかり考えていただいて、今度整備計画を、二次のやつを組むということですが、今まで放っておいて今から組みますということじゃ遅いんです。市の予算を少しでも入れてでもそこら辺の周辺を少しでもやっていますというぐらゐの答弁はいただきましたが、まだまだそこら辺まで行っていないようですから、認識不足だと私は考えます。いかがですか。

○議長（小川 廣康君） 教育長、永留和博君。

○教育長（永留 和博君） 一度に全面的にやることは不可能だと思いますので、中御霊屋、上御霊屋、これを終わらせた後に裏御霊屋かなと、順番的にそういう順番であろうというふうに分けております。

○議長（小川 廣康君） 7番、船越洋一君。

○議員（7番 船越 洋一君） 順番はわかるんです。先ほど言いましたように、そういうふうな木の枝がその墓石の上に引っかかっているというような状況だけは避けてください。余りにも、この対馬を築いた礎を、築いてくれた人に対して失礼ですよ。そういうのは、教育委員会の予算を、その第二次整備計画ですか、それに入れなくても、ある程度の金をちょっとでも入れてでも、そこら辺の清掃はするべきだと私は思います。

まして、その本堂裏には、京都の西川嘉長作の心字池というのがあるんですね。ここも立派な池なんですけど、ここには100年以上たったもみじの木がありましたけども、台風で倒れました。しかし、そういうところを含めた情緒があるわけですから、そういうところは後世にしっかり残していくようにするのが教育長、あなたたちの仕事です。

だから、今私が言ったことも含めながら、整備計画の予算を引っぱってくるということだけを目安に置くんじゃないし、教育予算の中からでもそれができるまでの間にそういうことができる配慮をしていただきたいと思いますがいかがでしょうか。

○議長（小川 廣康君） 教育長、永留和博君。

○教育長（永留 和博君） 池周辺であるとか、それから裏御霊屋の、そういう樹木の伐採等については、教育委員会予算でやれるんじゃないかなというふうに分けております。見苦しくない程

度に、墓石自体の整備につきましては、今後の計画によるところだと思うんですけども、そういうその樹木の剪定であるとか、草木の除草であるとかは必要に応じてやっていきたいというふうに思います。

○議長（小川 廣康君） 7番、船越洋一君。

○議員（7番 船越 洋一君） 木の伐採をせろとか言っていないんです。木はあそこ、きれいに伐採してありますからね。木は生えていない。木が倒れたやつがそこに乗っかってきておるといいますから、そこら辺も含めた中で、計画ができ上ってくるまでの間に、そういうことだけはしっかりしておいてください。そうせんと罰が当たりますよと、教育長に。それは言っておきますよ。

だから、そこら辺もしっかり気をつけてやってみてください。よろしくお願いします。

それから、2点目のこの万松院の入口の橋の件なんですけど、これは、前回も前市長のときにお話をしました。今は、橋の中央を、下から鉄骨を入れて突っ張ってあるんです。教育長も市長もそこは見に行かれたと思うんですが、あの状況ではとてもじゃないんです。

私が思うのは、今、一つ市長にお伺いしますが、今博物館建設があっています。旧幼稚園跡は恐らく駐車場にはできないと思うんですが、できますか、できませんか。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 基本的には駐車場では利用が難しいというふうに聞いております。

そこで、多目的ということで、乗降等だけは何とかできないものかということで、今現在も協議を進めているというふうに聞いております。

○議長（小川 廣康君） 7番、船越洋一君。

○議員（7番 船越 洋一君） そういう状況ですと、観光バス会社の人たちにとっても、せつかくの観光客が来るのにバスの置くところがない。今、それで苦勞していますよね。そのバスの停留所がないというような状況の中で、例えば、観光客がそこに入れてきてもバスの駐車場ないわけですから、だから西の浜に持っていかないかん。いろんなことを考えないかんでしょう。

私が言うのは、あその橋をかけかえて、万松院の広場にバスを入れると。そうしますと博物館があります。それから、今計画をしていこうかとしている朝鮮通信使の資料館もそこにできくと思うんです。それと万松院。こうなってきますと、そこで降ろして、その万松院からずっところ、そこに流れができてくるんです。その万松院の駐車場といいますか、広場、ここを一時的にバスが入れるようにして、バスをあそこにとめる。そうしますと、バスをとめる場所があるんです。それには今の橋じゃだめなんで、それを広くして、もうちょっと強度のあるものにして、そして横の石やなんかというのはそのまま使えないがら広くして、強度を出して、そこにやるとバスが入れる。そこで待ち合わせて出てくるということも可能でしょうし、いろんな考え方があ

と思うんです。観光客を西の浜まで歩いて行かせるということじゃなしに、そういうことをすることによって、そこでバスで乗降ができるわけですから、そういうふうなことも考える必要があろうかと思うんです。それには、橋のかけかえをやらざるを得ないと、私はそう思います。

この前、万松院の住職さんとお話をしました。それで、やはり万松院としても観光客が来る、そういうのであれば、自分のとこに参拝する人もおるでしょうし、またそこで待機することもあるでしょうが、橋をしっかり強度を出していただいて、そこで待つということについては問題ありませんというふうなことも言っておられました。

そこら辺は、観光商工部長、そういうところはやっぱり、そういうところに行って、どうでしょうかという、そういう話を聞いた中で計画は立てるべきだと思うんです。ただ単に、橋をかけかえるということじゃなしに、そういうことも含めた橋のかけかえはできないかということですから、御答弁を願います。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） この橋の重要性については、私自身も十分に認識をしているところでございます。

そしてまた、この橋をかけかえるということについては、私も異存はないところではありますけども、ただ、今現在、万松院の住職さんの話によりますと、住職さんのほうもこの橋の所有が果たして万松院のものなのか、そういった記録も残っていないということで、まだちょっと今、所有権について疑問符がついているというようなことを、文化財課の職員が出向いたときにも話をされていたということを聞いております。

そうしたところで、前回、この平成25年の議会のときに御質問をいただいた後に、この保存整備委員会のほうにも、この橋のかけかえについて打診をしているところでありまして、委員会の中では、先ほど少し議員さんのほうも話をされましたように、この城壁の石垣そして川等を見ながら、今度の博物館から心字池、そして太鼓橋。これを周りながらすることも念頭に入れたほうがいいのではないかというような意見も出されているところでございますので、このかけかえのみだけではなくて、果たしてどの方法が一番ベストなのか、委員会そしてまたその有識者の皆様、いろんな意見を聞いた上で、この橋をかけかえようということであれば、市といたしましても最大限の努力をしてまいりたいというふうに考えているところでございます。

○議長（小川 廣康君） 7番、船越洋一君。

○議員（7番 船越 洋一君） それを検討するのに何十年かかるんですか。皆さんと話をして、話をまとめてやるのに何十年かかるんですか。今の現状を見てみると、時代は変わってきてこういう時代に入っているんです。韓国からの観光客も40万人を超して来よるんです。日本の観光客もたくさん来ているんです。

そういうときに、いろいろな人と検討しながらどうのこうのって言っとなんて、何年後の話をしているんですか、市長。早急にこういうことは考えてやるべきことでしょう。

観光、観光と言いながら、そういうところに目をつけないということが一つの欠点なんです、対馬市は。だから、市長在任中に、あともう1年しかありませんからね、決断を下してください。それで、検討委員会に行って、いろんな意見を聞いてこうしましょう、ああしましょうってやっているうちに3年、4年かかりますよ。

そうじゃなしに、やっぱりそういう決断というのは、首長であるあなたが決断を下して、そしてこれはこういう方向で行こうと言えば、私はいいと思いますので、そういうところをしっかりと、この対馬全体を見たときに、ここが観光ルートの中に1つ入って、それから朝鮮通信使の資料館もできる。それで博物館もできます。そういうルートの中でここをどうすべきかということを考えると、やっぱりバスの待機所もあります。待機所の件もあります。そういうことから、全体を含めた中で早急にやらないかんというのは、あそこを広げて、バスがそこに入って待機しといて出てくるというぐらいのルートは考えるべきでしょう。

そうせんと、皆さんに西の浜まで歩いて行ってバスに乗ってくださいって言うわけにもいかんでしょう。そこら辺、しっかりと取り組んでください。お願いします。どうでしょうか。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） おっしゃられることは、よく私も理解をしております。

そういった中で、ただ、言うようにあのすばらしい金石川ですか、そして川沿いの石垣を見ながら散策することもまた必要だというような御意見もありますし、私もそこら辺はなるほどなところも持っておりますので、そこら辺をもう少しきちっと判断をしながら進めてまいりたいというふうに思っております。

○議長（小川 廣康君） 7番、船越洋一君。

○議員（7番 船越 洋一君） ああ言えばこう言う、こう言えばああ言うということでは、物事は先にずりませんよ。

そういうことを見極めて、方向性をぱっと出すのが市長の仕事です。ある人がこう言ったからちょっと待って、この人がこう言ったからちょっと待って。そういうことを堂々巡りしよったんじゃあ、物は先にずりませんよ。

それは市長の決断です。しっかりお願いします。

次に、この西川端通りの柳の木の剪定ですが、これは電線にももう触れておるんです。それで、先ほども言いましたが、台風のとくにもう2本ぐらい倒れて、人に当たらなかった、車に当たらなかったからよかったようなものの、やはりこれは剪定をして、そしてもう少し背を低くして、枝がこう垂れて、川面を照らすような、そういう情緒あふれる川面にせないかんと思うんです。

そういうところまで、気が、市長にはあるのかなという疑問を抱くんですが、あの木をもう少し剪定して、柳の枝がこうだれて、川面に映る情景がいいですよ。ところが、大町通りはハード面、川端通りはソフト面、こう考えますと、川があつて柳があつて、情緒がありますよね。そういう情緒を醸し出すのも城下町の雰囲気だろうと思うんです。

それをやるのはトップのあなたしかできないんです。そういう、目を閉じて思い描いてください。あそこの柳が、こう倒れて、川面に映って、川がきれいになってという、それはよくなりますよ。だから、そういうふうな雰囲気づくりをしていただきたい。城下町として。いかがでしょう。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） この川端通りの柳の木につきましては、私も東京対馬会、福岡対馬会、そして長崎対馬会等、出向いたときに、やはり対馬出身の皆様が一様に川端の柳の木を思い出すというような言葉をいただいたり、懐かしんでおられたのを今も思い出しております。

そういうことで、私もこのことにつきましては、できる限りの予算を確保しながら、剪定等に予算をもちろんつけまして、皆様が川面に映るこの柳の枝を楽しんでいただくように努めてまいりたいというふうに思っております。

○議長（小川 廣康君） 7番、船越洋一君。

○議員（7番 船越 洋一君） 早急にやってください、早急に。考えておりますではいつになるかわかりませんので、町並みを形成するというのは、そういうところから始まっていくんですから。早急にやることを考えてください。よろしくお願いします。

それから、この花壇です、市長、聞いてますか、東川端通りの花壇。これは、佐野屋橋から十王橋までは、私が刈ったんです、余りにも恥ずかしいから。それで、そこにアジサイの木を49本植えました。これ、余り自分のことを言いたくないんですが、しかし、そこはある程度、その十王橋から佐野屋橋まではきれいになっているはずですよ。ところが、私がやったから誰か見習って、誰かしてくれるかなと思って、上のほうをですね、誰もしてくれません。県も、そこら辺は見てやってくれるかなと思ったけども、県もしてくれません。市もしてくれません。誰がするんですかね。

ここは、県河川ですから県のほうがやられると思うんですけども、管理は県だと思えます。そこら辺は、県の人もそこは、茶屋町に飲みに行くときは見ると思うんですけども、なかなか気がつかんのかなと思いますが、やっぱり町並みの景観上、あそこにススキとか雑草が生えるとよくないです。ああいうのを見れば、この町は観光に対して一生懸命になっておるな、なっていないというのがすぐわかる。我々も、よそに行って、視察に行ったときもそうなんです。だから、そういうことからきれいにしていくのが、おもてなしの心だと、私はそういうふうに思いますの

で、そこら辺も県としっかり打ち合わせをやって、早速その振興局に行って、草を刈って下さいと。お願いします。

それから巖原本川の、この川の掃除なんですけど、市長も恐らく答弁されたから見に行ったんだろうと思います。しかし、やはりその先ほども言いましたが、ソフト面ではやっぱり川端通りというのは情緒があつていいですよ。観光客も、韓国の人もあそこを橋の上から川を見て、魚が泳ぎよるのを指さしているいろいろこうしていますよ。ああいうのは、情景的にいいですね。だから、そういうことが、和みができるような、場所が川端通りだと思うんです。その川端通りに、川底にごみが落ちてヘドロが堆積するようなことであつては、対馬市が疑われます。こういうところにも気を遣えないような町かと思われしますので、それを思われぬように、市長がしっかりそこら辺を目を光らせて、職員の方に、優秀な職員がたくさんおりますので、その職員の方に言っていただいて、そこら辺もしっかりやってほしいと思いますがいかがでしょうか。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） おっしゃられるように、巖原の町といえば、先ほどからも言うておりますように、やはりこの川端通り、ここが一番懐かしいと言われるようなところでございますので、今後もこの地域の環境美化につきましては、特に気をつけてまいりたいというふうに考えております。

○議長（小川 廣康君） 7番、船越洋一君。

○議員（7番 船越 洋一君） この町並み、景観というのは、特に気をつけてやっていただきたいと思うのは、やはり韓国からも40万人超して来る。あるいは、国内からの観光客も来るようになってきますと、ハード面の大町通りですか、今、俗に言う大町通りなんですけど、馬場筋通りというんですけど、ここは都会にあるような街並み形成なんです。ところが、川端というのはそれが一風変わって、ソフト面ですね、川があつて、柳があつて、情緒がありますね。そういうところはそういうところの雰囲気を出す必要があると、私はそう思います。それが、巖原の町のいいところだと思いますので、そこら辺、気をつけていただいて、しっかり取り組んでいただきたいと思います。

次に、この中矢来の浚渫ですが、確かに夏はにおいがするんです。この巖原本川から流れてきた残飯水にしても、浄化槽の水にしても、この巖原本川を全部流れてくるんです。そうすると、あそこに堆積していくんです。巖原本川は底張りしてありますから、そこには余りたくさんは溜まりませんが、大雨が降ったらきれいに流れていくんです。ところが、流れていったやつがどこに溜まるかという、中矢来のところに溜まる。そこに異臭が溜まってくるわけです。

ですから、ここはやはり何年かに一遍は浚渫をしていただかんと臭いです。あそこには朝鮮人の漂民屋というのがありましたね。本当は、漂民屋のところも復元したいというような思いはあ

ると思うんです、市長も。しかし、そうは言ってもなかなかできん面もあるでしょうが、やはりあそこがせつかく情緒があるのに、中矢来というのは臭い。異臭が立っています。夏は特に臭いです。やっぱり、その近隣の住民の人たちもやっぱり悪臭に悩まされることもありますので、そこら辺も県のほうにしっかり言っていただいて、できるだけ早くこれができるようお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） この中矢来の船溜まりにつきましては、その重要性は十分認識しておりますし、やはりまずこの中矢来自体が、江戸の初期につくられた重要な工作物であるということも、対馬の観光に寄与するものというふうにも考えております。

そういうことで、今後も県のほうに、この浚渫等につきましても力強く要望を重ねてまいりたいというふうに思っております。

○議長（小川 廣康君） 7番、船越洋一君。

○議員（7番 船越 洋一君） 中矢来の、今、赤い大橋がありますが、それから本道に出ていくんですけども、その中矢来の堤防がありますね、石垣があります。ここも草ぼうぼうなんです。やっぱり、観光客というのは、我々も視察に行って、こう目をつけるところは、やはりそういうところに行き届いておる町かな、町じゃないのかなというのは、そこら辺を見たらすぐわかるんです。

だから、我々と同じようにやっぱり視察とかに来られた人というのは、そういうところに敏感だと思うんです。ましてや、これだけ40万人、50万人、日本人の観光客も入れれば60万人ぐらい来るわけですから、そういう人たちが往来をする中で、やはりそういうことをしっかり気をつけてやっていくというのが、市長がよく言われるおもてなしの心だと思います。そこら辺をしっかりと気をつけていただいて、職員の方も時々はそこら辺を見ていただいて、やっぱり維持係がおりますので、市の職員もおるでしょう、維持班がですね。そういうところにもお願いをして、やっぱりできる限りその町並み形成をするには、町の中がきれいになるように、配慮をしていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。お願いしておきます。

それでは、最後になりますけども、これは私的なことではございますけども、このたび、一身上の都合によりまして3月末をもってこの市議会議員の職を辞することになりますが、市長を初め、市長部局の皆様と、対馬市の最高の決定機関である議場での議論をさせていただいたことに感謝を申し上げます。

今後は、初期の目的を達成し、対馬市のサポート役として頑張っておりますので、よろしくをお願いしておきます。

これで、私の一般質問を終わります。お世話になりました。ありがとうございました。（拍